



〈 連載 (154) 〉

神戸での船舶・海洋工学の国際会議 関西造船協会の90周年記念の一環として開催



大阪府立大学大学院・海洋システム工学分野・教授

池田 良穂

5 月20日、堺にある大学で大量の論文集を車に乗せ、高速道路の湾岸線を使って神戸へと向かった。ポートアイランドにある国際会議場で、翌日から始まる国際会議の準備のためである。論文集は、その国際会議で発表される約50篇の論文を掲載したものである。約1時間のドライブで会場に到着。学生と共に、大量のずっしりと重い論文集や発表のための各種機材を会場へと運び上げた。

会場の設営、受付準備等が終了して、4日間泊り込むこととなるポートピアホテルの展望ラウンジでまずは最初の打ちあげ。眼下にはポートアイランドの南側の広大な埋立地が広がり、さらにその沖合いには神戸空港の埋立てが進んでいる。やがて六甲山に夕日が沈むと、神戸の美しい夜景がパノラマのように広がった。

さて、この国際会議はAsia Pacific Workshop on Marine Hydrodynamics、略称APHydro (APハイドロ) という会議で、アジア太平洋地域の船舶・海洋工学の流体力学の若手研究者が集まるワークショップで、韓国、中国、台湾、オーストラリア、日本等から、全部で130名余りが集まった。

この国際会議の他に、Asia Pacific Forum というアジア太平洋地域の船舶・海洋工学の学会の連合体を結成するための第1回目の会議、New S techという新しい船舶やその技術に関する国際会議、TEAMという船舶や海洋構造物の構造強度に関する国際会議が並行して開催された。そして、会議の中日には、関西造船協会（本部:大阪大学船舶海洋工学教室内、会長:姫野洋司大阪府立大学大学院教授）の創立90周年を祝う式典、記念講演、祝賀会が開催された。

アジア・パシフィック・フォーラムの結成は、多くの新聞でも紹介された。欧米中心であった船舶・海洋工学に関する学術活動を、実際の産業拠点になっているアジアに移すために、アジア・太平洋地域の学会が団結しようというのが関西造船協会からの呼びかけで、日本からは関西造船協会のほか4学会（日本造船学会、西部造船会、日本航海学会、日本マリンシステムエンジニア学会）の会長が、海外からもたくさんの学会の会長が集まり、共同宣言を採択した。ここで次回は中国の上海で開催されること

も決まった。

さて、筆者が委員長を務めた国際会議 APHydroでは、船舶・海洋工学のいろいろな分野の研究発表が行われた。船舶の抵抗、復原性、操縦性、耐航性、推進、各種実験法、浮体構造物、海洋環境などの分野の研究が発表され、熱い議論がなされた。

中には、初めての英語での発表であがってしまい、会場との議論がかみ合わなかったものもあったが、それはご愛嬌（本人にとっては苦痛であったかもしれないが）。若手を中心とした会議であったため熱気に溢れ、コーヒーブレイクの会場でも議論が続く光景も見られた。元々の目的が、若干元気がない業界の中で活路を模索している若手を集めて、船舶や海洋開発への夢をもってもらい、国際感覚の豊かな人材に育て欲しいという趣旨で始まった国際会議であるから、発表内容もさることながら、多くのアジアの若手研究者と交流して、友達の輪を作ることが重要視された。そのため神戸商船大学の会場を借りて、学生だけのポスターセッションも開かれた。

ポスターセッションとは、一般の論文発表とは違って、各人が研究成果を1枚の大きなポスターにまとめて、それを掲示し、興味のある人がやってくれば内容を直接マンツーマンで説明をするという形式の発表で、最近は多くの学会で取り入れられている。関西造船協会の中の「関西船舶流体力学研究会（KFR）」の下にある学生組織 KFRジュニアが、国際会議 APHydroの一環としてこの学生企画を担当してくれた。

KFRジュニアでは、毎年、ステューデント・パネルと呼ばれる日本語のポスターセ

ッションを企画しているが、その国際版を企画してくれた。日本人学生が中心であるが、皆、英語でポスターを作成し、外国人が聞きに来た時のために英語での説明もできるように準備された。約40枚のポスターが並び、参加者は100名に達した。ポスターセッションが終わった後、歓迎パーティが催され、夜遅くまで懇親の輪が広がった。

この国際会議を主催してみて、若い人々の船舶・海洋工学への情熱もなかなかのものだと嬉しくなった。この若者の熱気がなくなれば、産業としての活気も失われるのは自明のことである。最近では、会社も人員を減らしているため、こうした最先端の国際会議に若手技術者を出席させる余裕が次第になくなってきている。しかし、それでは海事産業の未来はない。若者に夢と希望をもってもらえるように企画をどんどん打って行く必要があるようである。

関西造船協会のKFRでは7月12日（金）に、今話題の船舶推進器である「ポッド推進」に関するシンポジウムを大阪府立大学で、また翌13日（土）には大阪府立大学と大阪市港湾局の共催で「第13回クルーズ客船&フェリー研究会」を大阪南港にあるワールドトレードセンタービル内のホールで開催の予定である。前者は、船舶技術の最先端を紹介するもので、後者は新しい海事マーケットの開拓のためのイベントである。ここでも、たくさんの若い人々が集い、交流の輪を広げてほしいと思う。

この2つのイベントの詳細は、筆者までメールか電話でお問い合わせ下さい

(ikeda@marine.osakafu-u.ac.jp,
Tel.072-254-9343)。